

えゝゝ、大よろこびで御さいます。うちへまで持つて歸ります位でござへられた。その話を壓縮して、手つゝり早くいへば、幼稚園が幼兒の家庭にまで砂の供給者になつたのである。ハンカチへ包んだりして、もて歸りますのやゝ軽く大阪辯のまぢつた、なごやかな答をきいて、流石に膳さん(あの元老の膳眞規子女史だ)私は大に敬服したのであつた。——何も皮肉をいつてゐるんじゃないやありません。たゞ一寸思ひ出した砂場美談の一節だけのこゝこ。

第八週

席を立つた後、椅子を机に引き寄せておくこゝは、椅子生活としては、極く當りまへの一作法である。椅子から立

誘導保育

第四週

おもちゃ屋

蟲への興味も薄らいで來た。お神輿の騒ぎも沈まつて、

ちつばなしなんていふのは、談判破裂の時かなんかのこゝこである。第一、立つ時一寸手を椅子にかけるのが普通で、さうすれば、その力で一寸もさへ引きつけるこゝこになるのである。こゝこが、椅子は脚の仲間だこゝこでもいふこゝこか、手なごかけないで(勿論お客様が食卓へおつきになる時にはボーイが來て椅子を引く)一切の仕末を足で扱つて仕舞ふ流儀もある。あの流儀でいけば、立つた後の始末も、足で器用にすることになるのは自然だが、あれは甚だ以てよろしくない。犬じやあるまいし、そんな後足藝アトアシなんか覺へさせなくてもいい。いくら先生がお上手、否お上足だつても。……いやこれは失禮。

今度は落ちついて仕事の出来るものが好ましくなる。そこでおもちゃ屋が計畫された。

先づお店が作られなければならない。店は間口二メートル

ル奥行一・五メートル高さ二メートル位の大きさにし、主として先生が作る。この大きさは子供を本位とし決めた。次々さまざまな玩具をこしらへて陳列して置く。最後に自分の組或は全幼稚園を相手として賣り買ひ遊びをしてこの遊びの期待効果を全うする様にする。

この主題の期待効果は期待効果欄にある通り、各種材料による製作、陳列に依つてものゝ整理、賣買遊びに依る社會生活興味、觀察。

繼續作業時間は九週間。

此週は

鳥の玩具

蛙の玩具

(以下作り方は凡て手技の項参照)

唱歌遊戯

第四週

遊戯 五回

第五週 おもちや屋つゞき

魚
國旗

てんとう蟲

第六週 おもちや屋つゞき

きせかへ人形

でんく蟲

第七週

首かざり

こま

日の丸行進

小學校と合同でするからには、迷惑をかけない様に殊